

史記―廉頗と藺相如

司馬遷

澠池之会

秦王使使者告趙王欲與王為好會於西河外澠池。趙王畏秦欲毋行。廉頗・藺相如計曰「王不行示趙弱且怯也。」趙王遂行。相如從。廉頗送至境與王訣曰「王行度道里會遇之禮畢還不過三十日三十日不還則請立太子為王以絕秦望。」王許之。遂與秦王會澠池。秦王飲酒酣曰「寡人窃聞趙王好音請奏瑟。」趙王鼓瑟。秦御史前書曰「某年月日秦王與趙王會飲令趙王鼓瑟。」藺相如前曰「趙王窃聞秦王善為秦聲請奉盆缶秦王以相娛樂。」秦王怒不許。於是相如前進缶因跪請秦王秦王不肯擊缶。相如曰「五步之內相如請得以頸血澠大王矣。」左右欲刃相如相如張目叱之左右皆靡。於是秦王不懾為一擊缶。相如顧召趙御史書曰「某年月日秦王為趙王擊缶。」秦之群臣曰「請以趙十五城為秦王壽。」藺相如亦曰「請以秦之咸陽為趙王壽。」秦王竟酒終不能加勝於趙。趙亦盛設兵以待秦。秦不敢動。

(廉頗藺相如列傳)

【書き下し文】

秦王使者をして趙王に告げしめ、「王と好を為し、西河の外の澠池に会せんと欲す。」と。趙王秦を畏れ、行くこと母からんと欲す。廉頗・藺相如計りて曰はく、「王行かずんば、趙の弱くして且つ怯なるを示すなり。」と。趙王遂に行く。相如従ふ。廉頗送りて境に至り、王と訣して曰はく、「王の行、道里を度るに、会遇の礼畢はりて還るまで、三十日を過ぎざらん。三十日にして還らずんば、則ち請ふ太子を立てて王と為し、以て秦の望みを絶たん。」と。王之を許す。遂に秦王と澠池に会す。

秦王酒を飲み酣にして曰はく、「寡人窃かに趙王音を好むと聞く。請ふ瑟を奏せよ。」と。趙王瑟を鼓す。秦の御史前み、書して曰はく、「某年月日、秦王趙王と会飲し、趙王をして瑟を鼓せしむ。」と。藺相如前みて曰はく、「趙王窃かに秦王善く秦声を為すと聞く。請ふ盆甌を秦王に奉じ、以て相娛樂せん。」と。秦王怒りて許さず。是に於いて、相如前みて甌を進め、因りて跪きて秦王に請ふ。秦王甌を撃つことを肯ぜず。相如曰はく、「五歩の内、相如請ふ、頸血を以て大王に濺ぐことを得ん。」と。左右相如を刃せんと欲す。相如目を張りて之を叱す。左右皆靡く。是に於いて、秦王憚ばざるも、為に一たび甌を撃つ。相如顧みて趙の御史を召し、書せしめて曰はく、「某年月日、秦王趙王の為に甌を撃つ。」と。秦の群臣曰はく、「請ふ趙の十五城を以て秦王の寿を為せ。」と。藺相如も亦曰はく、「請ふ秦の咸陽を以て趙王の寿を為せ。」と。秦王酒を竟ふるまで、終に勝ちを趙に加ふること能はず。趙も亦盛んに兵を設け以て秦を待つ。秦敢へて動かず。

【口語訳】

秦王は使者に趙王に告げさせて言った、「王と親睦を図るべく、黄河の南の澠池で会見したい。」と。趙王は秦を恐れ、行くまいとした。(すると)廉頗と藺相如が相談して言った、「王がお出かけにならなければ、趙が弱くその上臆病であることを(天下に)示すことになりません。」と。趙王は結局行くこととなった。相如が(王に)付き従った。廉頗は(王の一行を)国境まで送り、王に別れを告げて言った、「王の(このたびの)お出ましは、旅程を推測しますに、(秦王との)会見の儀式が終って帰還されるまでに、三十日を過ぎることはないでしょう。三十日でお帰りにならないければ、その時は太子を推し立てて(新)王とし、そうすることで(趙王を)人質にするなどして趙を操ろうとする)秦の野望を絶ちたいと存じます。」と。王は之を許した。かくて(趙王は)秦王と澠池で会見した。

秦王は酒宴を行い(その)酣に言った、「私は内々に趙王が音楽を好まれると聞いている。瑟

を演奏していただきたい。」と。(そこで) 趙王は瑟を演奏した。(するとすかさず) 秦の記録を担当する役人が進み出て、記録しながら言った、「某年某月某日、秦王は趙王と酒宴をともにし、趙王に(命令して) 瑟を演奏させた。」と。(すると) 藺相如が進み出て言った、「趙王は内々に秦王が秦の民謡を上手に歌われると聞いております。秦王に盆甌を献上いたしますので、(それを打って拍子をとりつつ歌っていただき、) それで一緒に楽しみましょう。」と。秦王は怒って承知しなかった。そこで、相如は進み出て甌を差し出し、そうして跪いて秦王に願った。秦王は甌を打つことを承知しない。(すると) 相如は言った、「(秦王と私とは) 五歩の内(という至近距離) ですぞ、(私) 相如は、この首を切ったときに流れる血を大王に注ぎかけてみせましょうか。」と。(すると秦王の) 側近たちは相如を斬ろうとした。相如は目をむいて彼らを怒鳴りつけた。側近たちは皆退いた。そこで、秦王はいいやいやながらも、(趙王の) ために一回だけ甌を打った。(するとすかさず) 相如は振り返って趙の記録を担当する役人を呼び、書き取らせて言った、「某年某月某日、秦王は趙王のために甌を打った。」と。(すると) 秦の群臣が(対抗して) 言った、「趙の十五の都市を差し出して秦王の長寿の祝い(の引き出物) としていただきたい。」と。藺相如もまた(これに対抗して) 言った、「秦の咸陽(の都) を差し出して趙王の長寿の祝い(の引き出物) としていただきたい。」と。(かくて) 秦王は酒宴を終えるまで、とうとう勝利を趙に対して収めることができなかった。趙もまた盛大に軍を構え、そうして秦(の出方) を待った。(かくて) 秦は思い切って動こうとはしなかった。